







目の前に立つ、屈強そうな男に、首を傾げる美香。

「え……………、え………っ？誰………？」

状況が良く飲み込めない。

何故、自分の部屋に知らない男が居るのか。

どうやって入って来たのか。

何故、今までそれに気付かなかったのか。

「おやおや、学校から帰るなり、
部屋に閉じ籠もってオナニーかい。
まだ若いのに不健康だねえ」

美香は、ベッドの上に座って男を見上げている。

その姿は、生まれたままの姿である、全裸。

思わず、身体を隠す。

恥ずかしさに真っ赤になる美香。

「そっかそっか、隣ではお姉ちゃんが
彼氏連れ込んでセックスだもんな。
そりゃムラムラくるか」

壁の向こうから、双子の姉である未央の
甘い喘ぎ声と、ベッドの軋む音が聞こえて来る。

未央が、彼氏を部屋に連れ込んでいるらしかった。

「だ……誰なんですか………。どうして……
家の中に……？どうやって……」

胸と股間を隠しながら、男に問い掛ける。

しかしもう、答えなど分かりきっていた。

男は、不法侵入者だ。たとえ玄関に鍵が
掛かっていなくても、他人の家に勝手に
足を踏み入れるなど、犯罪行為だった。

「誰って、分かってんだろ？俺が何を目的に
ここに居るのかなんて……」

男は、刃物をチラつかせながら美香の
眼前に突き付ける。

「ひ……」

怯える美香。本物だった。男は、
本物の刃物を持って美香を
脅迫していた。

「大人しくしな。でかい声出したら即殺すぞ。
脅しだと思ふなよ。今日も既に3人殺ってきた
とこなんだからよ」

美香は、がたがたと震える。無菌室で育った
正真正銘の普通の女の子である。強盗などに
立ち向かえる筈が無い。

「じゃあまず、そうだな……その可愛いおっぱいから
見せな。そう……そのでけーおっぱいだよ。マンコも
隠すな。全部見せる。ほら、隣じゃ素っ裸で同じ事
してんだぜ？お前もやるんだよ……」

壁の向こうから、姉の淫らな喘ぎ声と、恋人の
名を呼ぶ声が聞こえて来る。『真一』『大好き、
大好き』『チンポ』『おまんこ』『セックスしてる』
と言う言葉が繰り返して連呼されていた。

「ほら……やれよ。分かったら？やり方」

男は、いつの間にか勃起したペニスを露出し、
美香の眼前に突き付けていた。

美香は、おずおずと震えながら顔を近づけ、男のモノを
口に触れさせた。

「む……ぐう……、ううっ……！うっ……！
はあ、はあ、はあ、はあっ！ああ……！」

「こんだけエロい身体してんだ、何回だって
イケるぜ……！顔も可愛いしよ……！」

ぱん！ぱん！ぱん！ぱん！ぱん！

美香は、男子による学園内人気投票で
3年連続堂々1位を取る程の美少女だった。
姉である未央も、1年の時に4位、2年の
時に9位、3年では遂に2位を取得している。
学校内では知らない者は居ない程の、
超有名美少女姉妹だった。彼女等を
ズリネタにした事の無い男子生徒は居ないと
言われている。

「お前とやりたがってる男って沢山居るん
だろうな……そう思うだろ？だってこんだけ
可愛い顔して、身体もエロいときてやがる」

目の前で揺れ動く乳房をむにゅむにゅと
揉みながら、腰を振り、ペニスを動かす
男。美香の開発された身体が、
見ず知らずの男によるレイプにも敏感に
反応し、快感をもたらす。

「レイプされてんのに感じてやがる……！
お前どんだけ淫乱の変態なんだよ……！
こんなに可愛い顔してるくせに……！」

男のペニスが引き抜かれ、美香の肛門に
押し付けられる。強引に挿入されるペニス。
美香が、苦悶に満ちた表情を浮かべた。

「むぐあ……！！」

本日3回目の、アナルセックスだった。声を出すと刃物を突き付けられるため、声を押し殺す美香。

「ああ……やっぱりいいぜ……！レイプはこうでなくっちゃな……！」

男は、苦痛に満ちた表情を浮かべる美香の顔を見て、満足そうに腰を振りまくるのだった。

押し殺したような声を漏らしながら、ベッドの上で男にされるがままに犯される美香。声を出せば殺される。その恐怖が、美香を従順にさせていた。上から、下から。前から後から、激しく、凄まじいレイプを受け続ける。

「何だよ、こんなに可愛いくせに
処女じゃねーのかよ……！
まったくこれだから今時の
若者は……、彼氏が出来りやすぐ
セックスしやがる。これじゃレイプする
楽しみがねーだろーが……！」

ぱん！ぱん！と尻を打ち付けながら、美香の濡れまくる柔らかい肉壁を犯しまくる。その濡れ方と、小刻みに痙攣する内壁の感触に、処女では無いどころか、相当な経験回数を誇っているであろう事が容易に予測出来た。

「お姉ちゃんすっげーな、もう3回目だぜ？」

隣の部屋からは、姉である未央の喘ぎ声が相変わらず響いている。あれから1時間弱。既に、2回の行為終わっており、現在3回目に突入している事が確認出来た。

「こんだけエロいんだよお前のお姉ちゃん……！
このヤリマン姉妹が……！」

「あ………ああん………っ」

目の前でたぶたぶんと乳房を揺らしながら身体を震わせる美香。男は既に、美香の身体に7回の射精をしていた。

『あんっ！あんっ！あんっ！あんっ！真っ！真っ！』

ずりゅ！ずりゅ！ずりゅ！

美香のアナルを限界まで押し広げて、出入りを繰り返す男のペニス。張り詰め、そそり立った肉棒は射精のために有り得ないほどに太く、長く巨大化していた。

ぱん！ぱん！ぎし！ぎし！と響いて来る、激しいセックスの音。楽しく、幸せな恋人達の熱いラブシーンだった。すぐ隣で暴漢による不法侵入が行われており、仲の良い双子の妹が今まさにレイプされまくっているなどとは、想像も付かないだろう。

「いく……！いく……！アナルでイクぜ！

淫乱女子○生笠原美香！彼氏でも無い男に

アナル犯されながら射精されなほらっ！

あああ——っ！！！」

「あ……ああはあ……だめえ……

らめえ……らめ……ああ……」

アナルを激しく犯されているというのに、美香は興奮していた。美少女である美香は、生粋の変態だった。幼い頃よりオナニーが趣味の、エッチ大好きっ子だったのだから。

びゅっ！びゅん……！どく、どく……っ

直腸に精液を流し込まれ、その感触に喘ぐ美香。紛れも無く、快感に酔い痴れていた。

「変態が……！」

ぴしゃり！とおとこの手が美香の尻を打つ。豊満なヒップが、たぶん！と波打った。

「ほら、お姉ちゃんの方向きな」

男の手が、美香の長い髪を掴み、持ち上げる。そのまま、柔らかいウエーブ掛かった茶髪を、その細い首に巻き付ける。

「……え？……何を……、……っ！？」

……っ！？」

息が出来ない。美香の長い髪が首に巻き付き、そのまま首を締め上げていた。

「い……っ、いぎ……っ……、でき………ない………っ」

「そりゃそーだ、首絞めてんだから。ほら、お姉ちゃん楽しそーだぜ……！」

アンアン言ってやがる。どんだけセックス大好きなんだよ

壁の向こうからは、未央の悩ましい喘ぎ声が聞こえて来ていた。

「ほら、助けを求めてみな……出してもいいぜ声」

「だ……ずげ………み………お……」

ぎりぎり締め上げられる首。息が出来ず、声も出せない。助けを求めようにも、セックスの快感と疲労で、もう腕も足も動かせなかった。

「俺、もうお前に飽きたから。今から殺すからよ。俺な、女を殺すのが一番好きなんだ」

美香は、自分がこれからどうなるのかを知り、戦慄した。自分は今まさに、殺人鬼にその命を奪われようとしているのだ。

『あん！あん！真一！真一！チンポ凄い！

ああん私のおまんこ！ズボズボしてる！

レイプみたいに激しくマンコ犯してるよおっ！！』

「……あ……あが……、……あえ……っ」

壁のすぐ向こうでは、姉が甘いラブシーンを演じているのだ。手を伸ばせばすぐ届く距離。しかし、薄い壁が阻んで、その手は届かない。今まさに、美香は暴漢に無残にも絞め殺されようとしているというのに。

『未……央………私………もう………

………死んで………しまうわ………

これから………あなたの目の前………で………

あなたが佐山さんとセックスしている………

すぐ傍で………知らない男に………レイプ………

されながら………』

美香は、首を締め上げられながら、興奮していた。自らの死にすら、美香は興奮していたのだ。乳首が固くそそり立ち、股間からは愛液が絶えず滴り落ちている。笠原美香は、生粋の変態だった。

『だめえ！美香に！美香に聞こえちゃうよお！あああ！』

パンパンという姉のセックスの音を聴きながら、美香は薄れていく意識の中で、殺される興奮に、最後の絶頂を迎えた。

ぶるるっ……ぶるるっ……！

目の前で痙攣する美香の身体。男は楽しそうに言う。

「こいつ、イキやがった……！殺されるってのに
一人でイキやがった……！サイコー……！
マジ変態だぜこいつ！自分が殺されるのに
興奮してやがる！超変態！こんなに可愛い
美少女のくせに！」

男は、美香の掴んだ長い髪を引っ張る。
締め上げられる首。細い髪の束が柔肌に
深く食い込んでいく。しかし、もう美香に
反応は無い。涙に濡れた瞳は虚ろで、もう
この世のどこも見てはいなかった。瞬きも
せずに、その身を断末魔の痙攣に震わせている。
首を締め上げられ、氣道が塞がれた事による
単純な窒息死だった。

「あーあ、死んじゃった。さっきまでアンアン
チンポ飲み込んでマンコ濡らしてたのに。
まあ俺が殺したんだけど」

男のペニスが、むくむくと鎌首を持ち上げていく。
殺人鬼の男は、殺害が最も興奮する快樂だった。

「やっぱいな、人を殺すのって。こんな美少女なら
サイコーに興奮出来るぜ」

『あんっ！あんっ！真一！真一！ああん
いくっ！いくっ！イクッ！イクッ！美香に
セックスでイクとこ聞かれちゃうよお！
あああんいくいくいくう——っ！！』

すぐ隣の部屋で、妹が見ず知らずの男に
絞め殺されたと言うのに、未央はそれにも
気付かずに、セックスの快樂に喘いでいた。

「白状だなあ、お前のお姉ちゃん。妹が殺されたってのに、
自分は彼氏とエッチかよ」

男は、隣から聞こえて来る女の喘ぎ声を聞きながら、
勃起したペニスをしごき始めた。

ぱん！ぱん！ぱん！

静まり返った部屋に、柔肌を打つ音が響き渡る。
動かなくなった美香の身体を、男は尚も犯し
続けていた

「ああ……やっぱいいぜ……！この抜け殻になった
感じがな……！可愛いし……！」

男の激しい責め苦に、がくんがくんと
その身を揺らす美香。もう何の反応も無い。
死んでいるのだ。脳は働かず、息もしない。
心臓も止まっていた。喘ぎ声など出す筈も
無かった

「ああ……チンポ超ポッキする……！
こんないい女……そうはいねー……！」

目の前には、長い髪を振り乱し、床に力なく
倒れ込む女子の生。凄まじい美少女で、
その身体はグラマラスそのものである。
そんな少女も、今はただの屍と化していた。
もう優しく微笑む事も、彼氏の前でセックスの
快樂に喘ぐ事も無い。

「ほらほら、おっぱい揺れてるぜ！自分を
殺した男におっぱい見せながらレイプされる
ってどんな気持ちだよ！」

男は、美香の死体を食い入るように見詰め
ながら、興奮を高めていく。

「じゃーね、また明日」

廊下を、三人の足音が通り過ぎた。彼氏を見送る、姉の声が聞こえて来る。まだ妹が
殺されたと言う事実を知らないのだ。彼と
ラブラブな一時を過ごしている時、妹は見ず
知らずの男にレイプされ、殺され、死体を犯され
続けているのだ。そう考えると、男は尚も興奮
するのだった。

「ああ……いくぜ！おっぱいに出すぜ！美香！
笠原美香っ！！ああ！！」

男は、既に冷たくなった美香の大きな乳房に、思い切り
射精する。生暖かい精液は、死んでも柔らかさを保ち
揺れ続ける形の良い巨乳を、たっぷりと白く汚していった。

「ほらほら、もっと腰触れよ！この淫乱女が！」

腰を打ち込みながら、未央の柔らかい尻を手で打つ。
ぱあんっ！と鳴り響く大きな音。柔らかく、弾力溢れる
少女のヒップは、抜群の音を出した。

「あ……ああんっ……！」

喘ぎ声を漏らしながら、前後に腰を
くねらせる未央。彼氏にするように、
悩ましく、淫らに、自分を見せ誘惑する。

「ったくよ、彼氏のザーメンたっぷり
残ってんじゃねーか……、申出しかよ。
お前○校生だろ？こんな申出しまくって
いいと思ってんのか？ああ？」

男は、容赦無く全裸となった未央の身体を犯す。
その後、彼氏が帰った後、部屋で寛いでいた
未央の元に男が襲撃。刃物で脅した後、妹同様
徹底的にレイプした。既にセックスは5回目である。

「ほら、妹が見てるぜ……お前のエロい姿をよ
……素っ裸で男とセックスしている所をよ……！」

部屋の隅には、ぐったりとした美香の姿。
全裸であり、その身体は精液に塗れている。
瞳は大きく開かれたままで、口からは舌が
突き出されている。瞬きはせず、呼吸もして
いない。死んでいた。今まさに、未央犯している
男の手によって、犯されながら殺害されたのだ。

「お前の妹も良かったぜ……！おっぱいデカくて……
超淫乱だよ。知ってるか？さっきお前が彼氏とセックス
してるの聞きながら素っ裸になってオナニーしてたぜ！
だからレイプしてやったよ。可哀想だろ？お姉ちゃんが
セックスしてるのに、妹の方はオナニーなんて」

部屋の隅で、虚空を見詰めたまま動かない美香。
ついさっきも、未央のしている前で、美香の身体を
何度も犯し、その様子を全て見せた。妹の死体。
それをレイプする男。そんな異常な状況にも拘らず、
脅迫とレイプでもう抵抗する気力を失った未央は、
その全ての光景を、震えながらただ見ている事しか
出来なかった。

「お前の妹、超可愛かったぜ……！レイプされてんのに
超濡れまくりのぐちよぐちよおまんこだよ……！最後は
首絞められながらイキやがった……！イキながら
逝ったんだぜ……！すげーだろ？あのでけーおっぱい
ぶるぶる揺らしながら痙攣してよ……！最高だったぜ！」

「あっあっ、ああああんっ……！」

ぱん！ぱん！ぱん！ぱん！
バックから責められまくる未央。高く掲げられた腰。
衝撃が全身に伝わり、形の良い乳房が前後に
ぶるんぶると揺れまくる。

「おめーのおっぱいは、形はいいけど大きさが
イマイチだよな……まあそれでも普通の女に
比べりゃ大きい方だけど」

男は、未央を仰向けにさせると、ぐったりとした
その身体を再び犯し始める。

「あ……ああんっ……」

完全に濡れた未央の膣は、恋人でも
無い男のペニスの感触にも、甘い
快樂をもって受け入れる。

「もう何にも感じねー、ユル過ぎなんだよ
お前のマンコ。どんだけヤリマンなんだっ
ての……！なあ、今まで何人と何回
やって来たんだ？」

男は、未央の首をぎゅっと絞め、答え
を催促する。

「あえ……！ご……っ！ご……っ！
ごに……っ！ん……っ！……っ」

苦しきから、正直に答える未央。今の彼氏は、
未央の人生で5人目の男だった。

「やった回数は？今まで何回やったんだ……？
おら答えるよ！このヤリマン女！」

むにゅ！むにゅ！と乳房を荒々しく揉みしだきながら、
苦悶に満ちた表情を浮かべる未央に問いたです。

「か……かぞえ……てな……っ……ああ……があ……っ」

男の手は、容赦なく未央の首を締め上げていた。

「大体でいいんだよ、言えよおらっ！」

ぎゅっ……！

未央の細い首を、男の手が握り込む。気道が完全に塞がれていた

「あ……………えあ……………ご……………
ごひゃ……………かい……………くら……………
……………っ……………、……………っ」

白目を剥き、酸素を求めて舌を突き出す未央。学園内人気第2位の美貌が台無しだった。

「あーあ、すっげー顔……こんな女が男と500回もセックスしたなんて信じらんねー」

未央は、美香と並ぶ凄まじい美少女だった。ショートカットの髪と、活発な性格は、妹との対比も素晴らしく、その人気は絶大で、未央でオナニーをしている男子は数え切れない。

「でも正直、お前はいい女だと思うぜ……、だって俺、こんなに興奮してる……！」

男は、未央の首を絞めながら、猛烈な興奮を感じていた。

「初体験はいつだよ、いつからセックスやりまくりだったんだよ……！」

「〇……………ご……………っ……………っ」

素直に答える未央。もう酸素が脳に行き届いていないため、意識が朦朧としていた。

「〇5かよ……今時の若者は……！お前の妹は初体験〇8だって言ってたぜ……！この淫乱女子〇生が……！」

「ぐえっ……………」

男は、腰を振り、乳房を揉みながら、首を絞める手に力を込める。握り潰される首。気道は完全に塞がれ、呼吸は停止。もう目は見えず、瞬きも止まっていた。

「ああ……イクのか……？いいぜ……可愛い……！俺もイクぜ……！ほらほら、お前もイケよ……！おら！俺のポッキンポでマンコガンガン突かれながら逝けよ！逝けよ！おら逝けっ！あああ……！あああ——っ！！」

びゅんっ！びゅんっ！びゅんっ……！

男は、今まさに絶命しようとしている少女を食い入るように見詰めながら、最高の興奮の中で射精した。

「っああ……最高……っ！いい……ぜ……！お前のくたばる姿……！最高にイイ……！超出るっ……！サイコーにザーメン出る……！」

男は、白目を剥いて、涙と涎を垂らしまくる未央の顔を見詰めたまま、射精を繰り返す。最高の快樂。男にとっては、人を殺す瞬間が最高に気持ちいい射精が出来る時だった。

「あーあ、逝っちゃった……可愛いのに」

びくんっ……………びくんっ……………

断末魔の痙攣に、その悩ましい裸体を揺らし、乳房を見せ続ける未央。もう死んでいた。恥らう事も無く、恋人以外の男に裸を見せても身体を隠そうともしない。

「そんなにおっぱい見られるのが好きなのか？淫乱が……！」

脈動を繰り返すペニスを、未央の乳房に押し付ける男。硬くそそり立った乳首。死しても尚、セックスと視姦の興奮により、乳首は立っていた。

「あーあ、自分をレイプして殺した相手におっぱい見せて興奮して……とんでもねー変態……！」

男のペニスが、更に固く張り詰めていく。つい先ほどまで生きて、呼吸をして、瞬きをしていた少女の死体。自分の手で、その命を奪ったのだと思うと、猛烈に興奮した。

「レイプしてやるよ……！きっとお前が生きて喘いでいる時よりも楽しいセックスが出来るぜ……！何せ俺は人を殺すのが何よりも大好きだからな……！死姦とか超大好きだぜ……！」

男のペニスが、未央の開かれた股の間に挿入される。もう動かない身体。人形のようなその姿が、異常者の男を興奮させ、いきり立たせていた。

「あー可愛い……！ やっぱ死んだ女ってのは最高に興奮するぜ……！」

「なあ、そう思うだろ？美香ちゃん」

未央の傍らには、同様に白目を剥き、舌をだらしなく突き出した、妹の美香の死体。その大きな乳房を惜しげもなく見せながら、犯される姉の姿を、瞬きもせずに見詰めていた。

「ほら、お姉ちゃんのセックスだぜ……！興奮するだろ……？オナニーしろよ……！」

美香は動かない。死んでいるのだから当然だった。

「しかし、お前らって本当に美人姉妹だよな。こんな可愛い双子見た事ねー」

既に、セックスは10回以上行われている。にも拘らず、男の勃起は治まる気配が無かった。未央と美香は、数え切れないほど、男子生徒を射精させて来た、超美貌のズリネタだった。今まで放出されて来た精液の量が、何リットルになるのか見当も付かない。

「こんな美少女を、姉妹揃ってレイブしまくって、しかも殺せるなんてよ……！」

ぱんぱんぱんぱん！
男の腰の振りが速まる。射精寸前だった。

「ああいく！いく！出ちまうっ！ああ！お前の死体見ながらイクぜ！冷たいマンコ犯しながら死体の中にザーメン出すぜ！妹の死体とお姉ちゃんの死体見ながら、可愛いオッパイ見ながらビュって出すぜ！おらっ！あ——っ！！」

びゅるんっ！びゅっ！びゅっ！
びゅるっ……！びゅるっ……！びゅるっ……！

男は、未央の死体を見下ろしながら、その身体に思い切り射精する。果てしなく吐き出される精液。男の欲望は留まる所を知らず、その後も未央と美香の身体を代わる代わる犯し続けていった。

未央の全く反応しない身体を、乱暴に犯す男。がくんがくんと身体が揺さ振られ、乳房が揺れる。今まで、数百回に渡って男を勃起させ、射精に導いて来た、悩ましい少女の乳房。それはもう、恋人を誘惑し、奮い立たせるために使われる事はない。もう、未央は死んでいた。その身体は、これから醜く朽ち果てていくしかないのだ。

「こんなエロいおっぱいがよ、もう男に揉まれる事も無いんだぜ……勿体無い」

むにゅ！むにゅ！と未央の乳房を揉みしだく男。多くの男子生徒を、服の上からでも射精させて来た、美少女の美乳だった。

「さっきまではつまんねーって思ってたのに、超興奮するぜ……！美少女の死体だもんな……！今日だけで5人殺ったけど、最初の3人はブスだったからなー」

基本的に、殺人さえ出来れば容姿、性別は問わない男。しかし、若い女で美人なら、その身体をレイブするという楽しみが増えるのだった。

「お前みたいな女は、男にレイブされるために生まれてきたんだよ。だって女が美人なのって、男を勃起させるためにしか意味無いじゃん」

いきり立ったペニスを、冷たくなった膣に激しく出し入れし続ける男。全く反応が無いが、それが男をこの上なく興奮させる。

「可愛い……ああ可愛い……死んだ女のオッパイって何でこんなに興奮するんだ……！」

異常者の男は、美しい女は死体である事が至高だと本気で思っていた。

ぱんっ！ぱんっ！ぱんっ！

キッチンに響き渡る、衝撃音。人の肌と肌のぶつかり合う音だった

「ほらほら、可愛い娘さんがレイプされてるぜ……！
どんな気持ちだ？愛情こめて育てた娘二人が、
見ず知らずの男に犯されて、殺された挙句に死体を
レイプされまくってるぜ？」

ぎし……とロープの軋む音。
目の前に立つ女は、答えない。
天井から吊るされたロープに
首を繫いだまま、力なく宙に
ぶら下がっていた。爪先が、
かろうじて地面に届いている。
しかし、成人女性の体重を
支えるには、女の細い足では
耐えられなかったのだろう。
首を締め上げるロープは、女の
呼吸を止め、その命を奪っていた。

「何だ、死んだのか？もっと保つと思ったのによ。
案外だらしねーな、美麗さんよ」

拘束され、自由を奪われ、骸となった娘達が
目の前で犯される様子を、延々と見せ付け
られていた美麗。やがて彼女は静かに発狂し、
娘達が犯される様子を目に焼き付けながら、
窒息死したのだった。

「それでけーおっぱいでこいつらに母乳を与えてたんだろ？
こんなに大きく育ててよ……、今じゃこいつら彼氏とセックスしまくりの
淫乱娘だぜ？もう中出しとかさせまくりの」

テーブルに寝かせた二人の身体を、代わる代わる犯す男。
既に、美麗の身体は犯し尽くしている。娘の死を知らずに帰宅した
美麗は、男の手によって即座に自由を奪われ、数時間に渡って
レイプされた。そしてそのまま、天井に吊られたまま、娘の死体を見
せ付けられる羽目になった。

「それにしてもよ、この娘あってこの母親ありきだよな……、超美人ママじゃん。
41だって？有り得ね……！こんなエロ可愛い40代が居るか？フツー」

街でも評判の美人、笠原姉妹の母親である、笠原美麗。彼女自身、少女時代は
無敵の美少女として名を馳せた、有名人でもあった。その凄まじい美貌と淫乱な性格は、
確実に娘に受け継がれている。

「美香ちゃんよりおっぱいでけーじゃんかよ……！
ちよっと垂れてるけど、まだまだいい形してるぜ……
こりゃダンナとセックスしまくりだな」

実際、美麗はこの歳になっても夫とのセックスは
欠かさなかった。セックスは大好きだし、夫の事も
愛している。この美貌で、愛する男が居るのだ。
セックスをしないほうがおかしかった。

「ああ……こんな美人親子をレイプした挙句に
殺せるなんて……今日は人生で最高の日だ……！」

未央の身体を犯しながら、宙吊りになった
美麗の身体を見詰める男。ショートカットで
スレンダータイプの未央と、ウェーブ掛かった
長い髪のグラマラスな美麗は、ルックス的にも
対照的で、同時に見ると興奮した。

「ああいく！いく！可愛い娘の死体を
犯しながらイクぜ美麗さん！あんたの
可愛い娘をレイプして殺して！犯しまくり
ながらピュってするぜ！ああ——っ！」

男は、未央からペニスを引き抜き、
美麗の元に向かうと、その身体
目掛けて射精する。

びゅっ……！びゅるっ……！
びゅっ………！

「ああ……美麗さん……
可愛い……！こんなママが
居たら、毎日近親レイプ
しちまうぜ……！」

男は、目の前にぶら下がる
美貌のマダムを食い入るように
見詰めながら、その欲望を
吐き出していった。



「可愛い……、超可愛い……！エロいぜ美麗さん……！
こんなにエロかったら、熟女モノのAV出れるぜ……！
絶対人気AV女優だ……！何発ヌケるか……！」

ぎし……ぎし……

宙吊りになった美麗の身体を犯す男。

両手を後に縛られ、胸を隠す事も出来ずに、
男に乳房を見られながら、夫以外の男に
ペニスを挿入されていた。もっとも、既に絶命
しているので、身体を隠すも何も無いのだが。

「このおっぱいだよ……！何だこの
超美乳は……！41の女がこんな
可愛いおっぱい持ってるなんて
有り得ね……！20代でも垂れ
まくったオッパイの奴居るのに……！」

男の責め苦に、ぶるんぶると激しく
揺れまくる美麗の巨乳。大きさも形も
グラビアアイドル級で、41歳の女としては
異常なレベルの美しさを保っていた。
美麗は、美意識の高い女性だった。夫の
相手をしなければならないのである。
結婚し、子供を持ったからと言って、醜く
なっていない理由などにはならない。女は、
本人の美意識で、それなりの年齢まで
女で居られるのだ。

「こんなエロい身体、旦那のものだけにしておくなんて
勿体無さ過ぎるぜ……！俺みたいな殺人鬼のレイプ魔にこそ
相応しいんだよ……！この淫乱主婦が……！」

勝手な事を言いながら、美麗の熟れた身体を容赦なく犯しまくる男。
傍らにぐったりと寝かされた二人の娘が、母親の美しさを際立たせる。
若く、瑞々しい肉体を持つ、未央と美香。人生経験を積んだ、大人の
女性である美麗の熟れた身体は、娘達とはまた違った魅力があった。

「愛しい娘達の死体に見詰められながらのレイプはどうだ？
超興奮するだろ？このおっぱいマダムが……！」

男は、美麗の胸を見ながら、娘達の姿を見比べる。未央の、形の良い釣鐘型の美乳。
美香の、母親に匹敵する若い巨乳。美麗の、男を知り尽くした、妊娠も出産も経験した、
大人の熟れた巨乳。どれも、甲乙つけ難い魅力的な乳房だった。

「ああ……いくいく……！美麗さん、あんたでイクぜ……！
このデカイ垂れたオッパイでよ……！ああ！！」

男は、柔らかくたぶたぶ揺れ動く美しい乳房を
見詰めながら、その膣内に射精する。既に、何度も
繰り返された射精のために、美麗の膣内は精液で
溢れ帰り、太腿は白い液体でぐちゃぐちゃに濡れて
いた。

「ああ……なんて可愛いんだ……美麗さん……
こんなに可愛い……ザーメン超出るぜ……！」

今日だけで30回以上の射精をしている男。
にも拘らず、男の勃起は治まらなかった。

「まだまだポッキ出来るぜ……、さあて、今度は
誰を犯そうかな……、スレンダーな未央ちゃんか、
ロリ巨乳の美香ちゃんか、それとも爆乳ママの
美麗さんか……迷うな」

男は、その後も警察が駆けつける寸前まで、
笠原親子の身体を犯しまくり、その身体に
射精し続けた。

殺人に慣れた男は、警察の手をあっさり
逃れて、そのまま失踪。その後も、レイプと
殺人を繰り返し、快楽を貪り続けた。



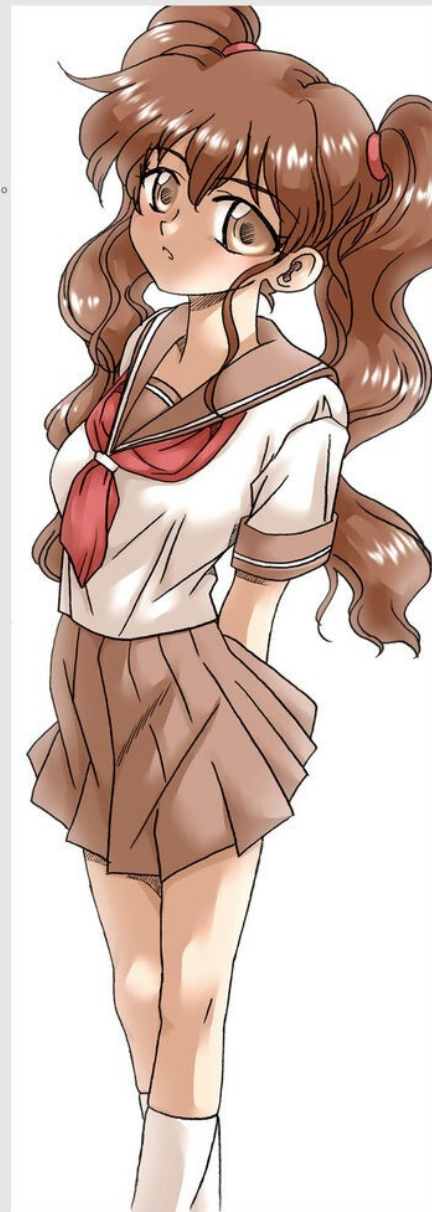


笠原未央

○8歳。○校3年生。バスケ部のエース。
引退した後は、彼氏とのラブラブな日常を楽しむ。
活発で明るい性格で、下級生からはお姉さまとして
絶大な人気を誇る。
過去2年の間に彼氏が5人代わった。典型的な
セックス大好きスポーツ少女。
双子の妹、美香と人気を二分する、男子生徒の
ズリネタクイーン。

笠原美香

未央の双子の妹。大人しく控えめな性格で、新入生の時は
『妹にしたい新入生』ナンバー1だった。読書が趣味。帰宅部。
幼い頃より密かにオナニーが趣味の、超淫乱少女。
○8歳で初めて彼氏が出来て以来、セックス三昧の日々。
愛くるしい容姿と、グラマラスなボディで、数多くの生徒を
想像の中で射精させて来た、学園のセックスシンボル。
姉同様、下級生には『お姉さま』として慕われている。



笠原美麗

41歳。兼業主婦。未央と美香の母。仕事と家事を
そつなくこなす、スーパーレディ。
今まで付き合った男は、夫を含めて二人しか
居ないが、若い頃から現在に至るまで、セックスを
欠かした事無い、超淫乱。今でも週5日、
計10~15回は夫とセックスをしている。
娘達にも丸聞こえだが、あまり気にしない。
娘達も淫乱だと知っているからだ。娘達の
淫乱な性格は、遺伝だった。
オナニーの時も、ズリネタは夫である。一途な性格。



Reminder that translations are not only welcome,
they are in demand!

提醒一下，不仅欢迎翻译，
他们很抢手！

翻訳を歓迎するだけでなく、
彼らは需要があります！

번역도 환영합니다
그들은 수요가 있습니다!